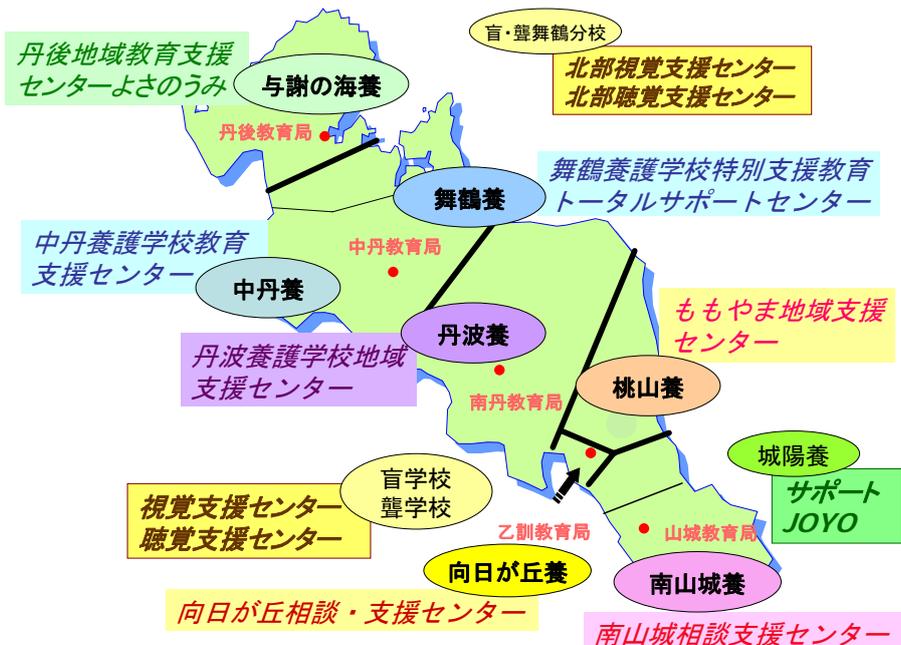


# 自立と社会参加に向けた 高校生支援のあり方をさぐる

京都府立桃山養護学校  
ももやま地域支援センター長  
吉田 美種

## 巡回相談チームのある支援センター 教育局と特別支援学校の連携



## 平成20年度の教育相談

- ・総数856件（保幼23件、小学校339件、中学校247件、高等学校247件）  
高等学校32校 高校生68名

特徴：

- ①高等学校からの相談が多い。
- ②高校生の「自立と社会参加」に視点をおいた支援
- ③保幼小中では、「今」の支援と「将来」を視野にいれた支援

## 高校生支援①

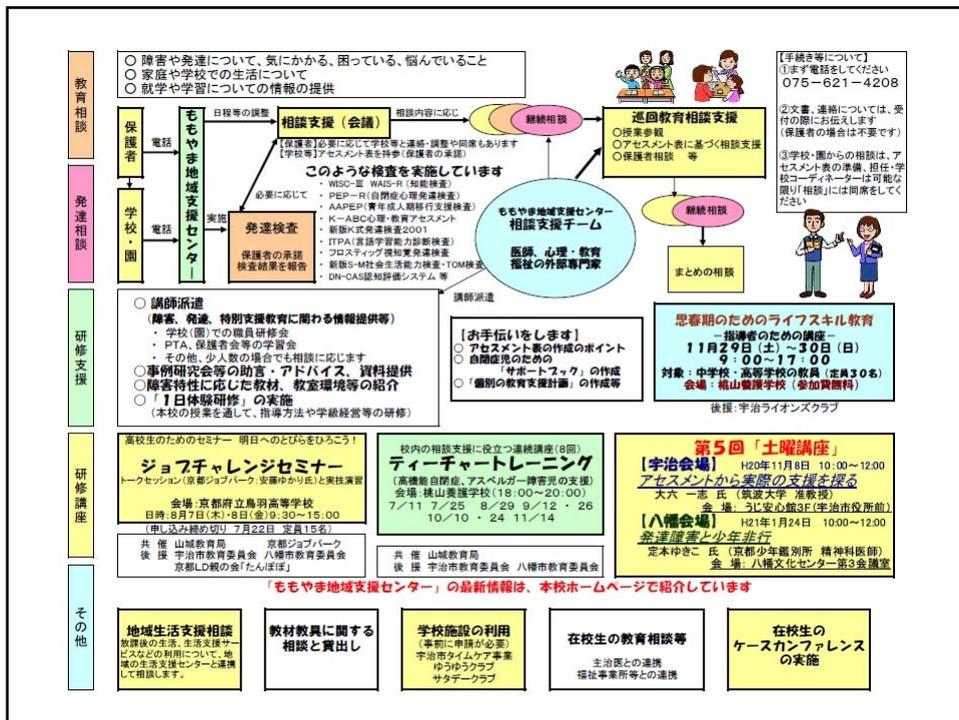
- 高校生の教育相談の主訴
- 進級問題（成績不良、欠席が多い、提出物が出せない、留年生の問題）
- 対人関係、社会性の問題、「行動」の問題、友だちや教師との関係
- 2次的な障害（うつ、脅迫神経症、リストカット、精神的な不安）
- 進路選択の問題・虐待の可能性
- 生活スキルの問題

## 高校生支援②

- ・主訴をふまえて
- ・教育相談活動
- ・研修会の講師として連携
- ・ジョブチャレンジセミナー開催
- ・キャリア教育とライフスキル教育の研修等で  
「社会的自立をめざす支援を！」

## 相談の中で大切にしていること

- ・本人の自己肯定感がたかまる方向
- ・実際の問題を解決する。  
(単位修得、登校 援助、テスト対策、行事参加、提出物の出し方)
- ・高校卒業後の進路も話し合い、本人の自覚を促す。家庭支援(食事、睡眠、お小遣い等)も視野に入れて、福祉と連携していく。
- ・主治医や児童相談所との連携



平成20年度 京都府立椋山養護学校・ももやま地域支援センター

## 明日へのびらをひらこう!

# ジョブチャレンジセミナー実施報告

**1日目: 午前 (8月7日)**  
『気持ち伝えるコミュニケーションワーク』  
講師: 安藤ゆかり氏 (京都ジョブパーク)

参加者8名でのコミュニケーションワークです。まずは自己紹介、みんなに伝えたいことをメモに書いてから、みんなの前で発表します。メモがあることで、落ち着いて自己紹介できていました。友達の発表に対して自然と質問が出たりして、少しずつ緊張がほぐれていく様子が見られました。

「気持ち伝えるワーク」では、「誰だ」、「やめて」、「などの自分の感情を伝えるワークをしました。感情の表し方が視覚的に分かるように、ボールを使ってのワークでした。実際の就労場面では、助けを求めたり拒否を示したりできることが重要なスキルになります。

**1日目: 午後 (8月7日)**  
『パッケージデザイン作り』  
講師: 寺尾隆史氏 (アイ・コラボレーション京都)

パソコンの作成機能を使って、ポトルタイプのガムのパッケージデザインに挑戦です。こちらの予想に反して、生徒たちのパソコン操作の得意なところが、先生たちが、パワーポイントを使ってデザイン作りのポイントを提示していただき、参加者用のテキストも準備していただきました。そのおかげもあり、練習用のデザインを離れず作成でき、明日のオリジナルデザインのイメージをふくらませていました。

**2日目: 午前 (8月8日)**  
『グループでのコミュニケーションワーク』  
講師: 安藤ゆかり氏 (京都ジョブパーク)

参加者14名に増えた2日目です。いろいろな集団ゲームを通して、みんなでの意見をまとめることが目的です。意見を伝えたり聞いたりしながら、お互いの強みや強みを探っていく様子がありました。話すことが苦手な参加者も、周りの友達が「話がさなない」「特づことを自然にしてくれるので、自分のペースで意見を伝えていました。

最後には、友だちへのメッセージボード作り。『○○君と話ができなくて寂しかったです』『みんなに会えて、参加できて良かったと思えた』などのメッセージもありました。

**2日目: 午後 (8月8日)**  
『オリジナルのパッケージデザイン作り』  
講師: 寺尾隆史氏 (アイ・コラボレーション京都)

自分たちが考えたデザインを、パソコンで作成しています。真やかなデザインや黒を中心とした斬新なデザインなど、参加者それぞれのデザインが次々と生まれています。

2日目の後半になると参加者同士も親しくなっていて、教え合ったり、お互いのデザインを見せ合ったりしていました。操作がうまくいかなさときには、近くの指導者を呼ぶなどして、スムーズに取り組みことができました。友だちのデザインを見て、『あーこういうのいいな』などの声もありました。

明日へのとびらをひらこう！  
**ジョブチャレンジセミナー実施報告**

平成20年度 京都府立桃山養護学校・ももやま地域支援センター

● 保護者・参加者の交流プログラム



参加者がパソコンでデザイン作業をしている時  
 同時に、保護者の方と参加者の方たちの交流を  
 しました。  
 本校からも「ももやま地域支援センター」のセ  
 ンター長や副センター長、連絡関係の教員が参加  
 してのグループ討論となりました。



大きなテーマは、  
 ・高校支援に関わって  
 ・就労移行支援に関わって  
 など、今の時期だからこそ気になるテーマです。  
 普段は交流する機会が少ない福祉関係の職員や  
 大学教授なども交えて、活発な意見交流の機会と  
 なりました。

● 参加者が作成したパッケージデザイン



参加者の感想

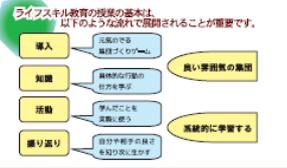
- 色々な人に出逢えて楽しかったし、楽しいグループで良かったと思います。また参加したいと思いました。(生徒)
- この2日間が本当に楽しかったです。苦手なコミュニケーションをとる練習もできたり、パソコンの作業もたくさんの人たちのサポートのおかげで楽しくすることができました。この2日間で会った人たちも、いやし系の人や楽しみたい人が、たくさんで、久々に「人といっしょにいることって楽しいな。」と思えました。このセミナーで過ごした人たちのことは忘れません！(生徒)
- 今日考えていたデザインを作って、デザイナーの仕事というのはこういう仕事だということがわかりました。朝のゲームはちょっと難しかったけど、楽しかった。(生徒)
- 年齢が上がるにつれ大人と思われそうですが、実際は発達のアンバランスさと未熟さを残して、大変不安な混沌とした状況にいます。将来の見通しをつけることができないので、また自分への自信もないので、自分の将来に希望が持てずいます。実社会に何の配慮もなしに出ていけるか心配です。社会に貢献できる子ども達がたくさんいるということをご理解いただき、何か変わればと切望します。(保護者)
- リピーターとして参加させて頂き、今年も楽しく興味あるセミナーとなりました。やはりコミュニケーションなどに課題のある方が働く職場を見ていただいたり、実際の就労現場で直面されたトラブルなど、具体的なお話を聞かせていただけるような勉強会も行っていたら、うれしく思います。(保護者)

Lifes Quest  
**「思春期のライフスキル教育」プログラム**  
 桃山養護学校ワークショップ(本校教員対象版) 実施報告

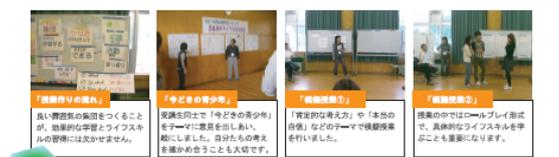
主催：ライフスキルプログラム150～190級 / 協力：発達支援フォーラム(株)

10月25・26日の2日間、本校の教員30名が「思春期のライフスキル教育プログラム」のワークショップを受講しました。

「**思春期のライフスキル教育プログラム**」とは、子どもが「自尊心の確立、責任感の育成、自分も他人も大切に」する、**主体的な人間**として成長する過程で必要となるコミュニケーションスキル、情緒的コントロールスキルなどの包括的な「生きる力」を体系的にカリキュラム化したプログラムです。(190)  
 こうしたプログラムを養護学校の教員が受講する理由は、発達障害のある子どもたちにとって、「相手の気持ちが読み取りにくい」「上手に自分を表現できない」「ストレスの対処方法を知らない」といった学校や社会で抱える「困り感」を解決・軽減できるスキルが重要だからです。



何より重要なことは、「良い雰囲気」の醸成づくりがあってこそ、**効果的な学習が効果的に進める**ということをやりました。  
 私たち受講生も実際に授業を受けることで、活動を通して学ぶことの楽しさや大切さ、自分の行動を相手に認めてもらううれしさなどを体験することができました。  
 また、2日目には、指定されたテーマや指導案をもとに授業展開を練り、教員を相手に模擬授業を行いました。授業を受ける側、授業をする側どちらも体験することで、より研修の学びが深まります。みんなで協力したり伝えあったりしながらの研修で、受講者は主体的に参加できるといえる良い雰囲気での研修となりました。



「授業作りの流れ」 良い雰囲気の醸成を促すことが、効果的な学習とライフスキルの習得には欠かせません。  
 「今日の青少年」 受講生同士で「今日の青少年」をテーマに意見を話し合い、磨きました。自分たちの考えを磨かめ合うことも大切です。  
 「模擬授業①」 「肯定的な考え方」や「本当の得意」などのテーマで模擬授業を行いました。  
 「模擬授業②」 授業の中ではロールプレイ形式で、具体的なライフスキルを学ぶことも重要になります。

# ティーチャートレーニング情報

今年度も、ももやま地域支援センターでは、  
ティーチャートレーニング（全8回）を実施しています。

## 1. 地域の先生向けのティーチャートレーニング

今年度は前年2年目の取り組みとなりました。  
今年度は、7人ずつ2つのグループに分れて取り組んでいます。1つは、支援学校の先生のグループ、そしてもう一つは、保護者やPTAとスタッフセンターの先生方のグループです。

個別、PDDに関するミニ講義をしたあと、グループに分れて「疑問や悩み」をシェアしています。高学年が前年の学びを伝えて、子どもを分けることで、早期に必要な支援のあり方について検討していきます。

「そうじの時間ニライラして机をおつけてしまおう」

こういう行動が起きてしまったら、担任の先生としては、誰かどこかで誰かがいることしかありません。不意に行動が起きると、早期にどういった対応ができるか？これが大切で、

「身体中に注意とトラブルを創出してイライラしているかもしれない」

→ 「身体中の様子をしっかり観察しよう。」

「毎日、授業内容の内容が変わるのが、受け止めにくいかもしれない。」

→ 「授業内容は、1週間交代にしよう。」など、

個別の案件を工夫することで、不意の行動を予測すること、1人1人に合わせて、ここを調整することで、指導のやりかたが見えてくるのです。いろいろなレベルの先生方が集まっていますので、まだ子どものアセスメントがしっかりできていない先生から、各学校のコーディネーターとして活躍されている先生もいます。多様なレベルの先生が集まることで、お互い学びを深め合ったり、アドバイスを合ったり、新たな発想や気づきを得たりできるのではないかと期待しています。学びを合ったり、お互い学びを深め合ったり、新たな発想や気づきを得たりできるのではないかと期待しています。学びを合ったり、お互い学びを深め合ったり、新たな発想や気づきを得たりできるのではないかと期待しています。

## 2. 校内の先生向けのティーチャートレーニング

今年度は、校内の先生向けにも、ティーチャートレーニングを行っています。9人ずつ2つのグループに分れて取り組んでいます。

お互いよく知っている子ども達の様子から、具体的な行動のあれこれをアドバイスし合うことで、具体的な指導が持てていきます。担任の先生だけでなく、PTAの先生も参加し、ある日の子ども達の行動の分析をすることで、具体的な指導のやりかたが分かってきます。早期にどういった対応ができるか？これが大切で、

## 今年度のティーチャートレーニングでは？

早期支援の視点で低学年の担任の先生を中心に高機能自閉症アスペルガー障害版ティーチャートレーニングを行ないます。

先生方の御参加を  
お待ちしております。

日時	内容	講師
7月11日(金) 18:00~	セッション1 オリエンテーション	桃山養護学校 教諭 玉村 総枝・大東 弘明・西野 正人 他
7月25日(金) 18:00~	セッション2 子どもの行動観察	桃山養護学校 教諭 玉村 総枝・大東 弘明・西野 正人 他
8月29日(金) 18:00~	セッション3 子どもの行動への良い注目の仕方	桃山養護学校 教諭 玉村 総枝・大東 弘明・西野 正人 他
9月12日(金) 18:00~	セッション4 上手な子どものほめ方・上手な注目のはずし方	桃山養護学校 教諭 玉村 総枝・大東 弘明・西野 正人 他
9月26日(金) 18:00~	セッション5 トークン（ごほうび）の使い方	桃山養護学校 教諭 玉村 総枝・大東 弘明・西野 正人 他
10月10日(金) 18:00~	セッション6 ストレスマネジメント	桃山養護学校 教諭 玉村 総枝・大東 弘明・西野 正人 他
10月24日(金) 18:00~	セッション7 感覚について	桃山養護学校 教諭 玉村 総枝・大東 弘明・西野 正人 他
11月14日(金) 18:00~	セッション8 ソーシャルストーリー	桃山養護学校 教諭 玉村 総枝・大東 弘明・西野 正人 他

【京都府立桃山養護学校ホームページ】 <http://www.kyoto-be.ne.jp/momoyama-s/>

【主催】京都府立桃山養護学校 ももやま地域支援センター 【共催】京都府立教育局 【後援】宇治市教育委員会・八幡市教育委員会

平成20年度 京都府立嵯峨山養護学校 ももやま地域支援センター

## 第5回 ももやま土曜講座

講座① <b>【手話会場】</b>	講座② <b>【八幡会場】</b>
平成20年11月8日 (土) 10:00~12:00	平成21年1月24日 (土) 10:00~12:00
<b>『アセスメントから 実際の支援を考える(仮題)』</b>	<b>『発達障害と少年非行』</b>
講 師：大六 一志 氏 (筑波大学 大学院 人間総合科学研究科 准教授)	講 師：定本 紗さこ 氏 (京都少年鑑別所特科科長)
会 場：うじ安心館3F水ホール 902号室1206 (中倉市保健所 中倉保健 特別センター内)	会 場：八幡文化センター第3会議室 新築509号
共 催：京都府立嵯峨山養護学校・宇治市 後 援：宇治市教育委員会	共 催：京都府立嵯峨山養護学校 後 援：八幡市教育委員会
<p>特別支援教育の重要性が各学校において認識され始め、個々の教育的ニーズに応じた支援が求められる現状です。本校相談スタッフは、現場の先生方との相談支援活動の中で、支援把握の大切さを強調しています。その子が現在の姿に至った原因を探り下げ、支援の方向性を描きながら、今すべきことは何なのかを検討するために、アセスメントはとても大切だと実感しています。</p> <p>今回はそういった問題意識から、筑波大学の六六一志先生を講師として講演を依頼します。六六一志先生は、臨床発達心理士(特に知能の発達障害)、心理検査を専門にされ、心算検査のアセスメントの基礎や結果の解釈の進め方、指導への生かし方などの講演を、各地で多くごされている先生です。</p> <p>六六一志先生は、臨床心理士、臨床発達心理士、特別支援教育士Sの資格をお持ちです。現在、W A I S - I I I、W I S C - I V、W P P S I - I I Iなどの日本語版の標準化にかかわっていらっしゃいます。子どもの行動の背景にある原因の発露と対応をとらえ、的確な指導について考える機会になれば、と思います。</p>	<p>子どもたちによるショッキングな事件が相次いでいます。最近の子どもにも特徴的なのは、人と人のコミュニケーションが下手で衝動的であることです。非行少年の多くは、家庭内で傷を受けています。子どもの問題というのは、大人の責任であり社会の問題でもあります。傷ついた子どもの心を守り、健全な心の発達を守ってやる。そういう大人がいて、思慮を積み重ねていけるのです。大人が関わっていく努力をすれば、子どもたちは変わります。</p> <p>定本さんは、京都少年鑑別所法務員・精神科医として、非行少年の子どもたちの指導に携わっていらっしゃいます。1989年に前立山立国科大を卒業。大阪の近江キリスト教病院に勤務したあと京都大学病院特科科に入局。91年から京都少年鑑別所に勤務していらっしゃいます。</p> <p>今回は自閉症やA D H D・学習障害と非行の問題についてお話をさせていただきます。</p>
<p><b>お申込み</b> Eメール (momoysma@kyoto-be.na.jp) 又は、明記用紙に必要事項を 宛先の上、FAX (075-821-4210) にてお申込みください。</p> <p>インフォメーション：京都府立嵯峨山養護学校ホームページ <a href="http://www.kyoto-be.na.jp/momoysma-s/">http://www.kyoto-be.na.jp/momoysma-s/</a></p>	

## まとめ

(学習面や行動面での支援をして、大学に進学できても、自立の課題は先送りされただけである。)

- ・高等学校の支援は、社会的自立の視点が必要になってくる。(ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル、就労体験等)
- ・キャリア教育の視点
- ・自己理解力、自己表現力の育ちを援助